

科目名		人間工学特論 I			担当教員名	岡 耕平
該当DP	1	単位数	1単位	選択	配当年次	1年次・第2セメスター(前半)
曜日・時限		金曜日・6限目			教室	オンライン授業
授業概要		本講義では受講者の生活環境及び就労環境を題材に取り上げ、自分の身近にあるモノをより良く変えるためにはどうすればよいかという一貫したテーマにおいて、プロジェクトベースドラーニングの手法を取り入れながら、グループディスカッションやプレゼンテーションなど教員と学生あるいは学生同士の双方向の取り組みを通じて、人間工学の考え方及び原理原則について講義する。				
到達目標		1) 生理学・心理学分野の科学的研究方法をふまえ、人間工学に関する基本的原理原則を理解し、説明できる。 2) 前述の原理原則を踏まえ、生活及び職場環境を改善することができる知識を身につけることができる。				
回	日程	見出し	内 容			実践的な 授業方法
1	9/22	人間工学とは	人間工学の学術分野について概説する。また、プロジェクトベースドラーニングとして次回以降7回で取り組む各自の課題を決める。			
2	9/29	「快適」を測る(1)	「快適」という主観を評価するために、何をどのように測れば良いのか、原理原則や理論について講師が概説した上で全体で討議する。 [グループディスカッション]			○
3	10/6	「快適」を測る(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な環境における快適性を評価したものを発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]			○
4	10/13	「負担」を測る(1)	「負担」という主観を評価するために、何をどのように測れば良いのか、原理原則や理論について講師が概説した上で全体で討議する。 [グループディスカッション]			○
5	10/20	「負担」を測る(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な環境における負担を評価したものを発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]			○
6	10/27	「使いやすさ」を測る(1)	「使いやすさ」という主観を評価するために、何をどのように測れば良いのか、原理原則や理論について講師が概説した上で全体で討議する。 [グループディスカッション]			○
7	11/10	「使いやすさ」を測る(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な環境におけるツールの使いやすさを評価したものを発表し、それを基に講師が解説を加える。 [プレゼンテーション]			○
8	11/17	まとめ	これまでの講義を踏まえ、初回の講義で自らのテーマとした「問題のあるモノや環境」を改善するためのアイデアについて発表し、全体で討議する。 [プレゼンテーション]			○
キーワード		マン・マシンシステム、ヒューマン・インタフェース、人間中心設計			履修条件	なし
教材等	教科書(要事前購入)	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。				
	参考書(任意購入)	『オキュペーショナルエルゴノミクス』エディエンヌ・グランジャン(著) ユニオンプレス 2002年 『誰のためのデザイン?』D.A.ノーマン(著) 新曜社(増補・改訂版) 2015年				
成績評価方法(%) [評価のポイント]		①講義内で指示する課題への回答とディスカッション(40%)、②レポート(60%) [科学的研究方法及び人間工学の原理原則の理解の程度を評価する。]				
授業時間外に必要な学修		講義で扱った内容に関することの復習および関連する知識の自主的な学習。また、講義内で指定する講義に用いるための素材となるものの収集。				
学生へのメッセージ		人間工学の知識はみなさんの生活及び就労環境の改善に大変役に立つものです。この知識を身につけるためには、授業だけではなく自主学習も必要です。積極的に質問されることを勧めます。				

※ 授業の日程については変更する場合があります。